



ヒューマンエラーを防ぐ

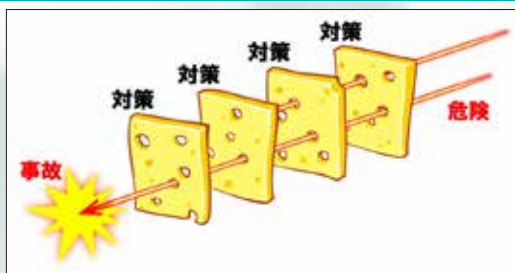
1 月度労働安全衛生委員会にて、江蔵顧問よりヒューマンエラーを防ぐというお話がありました。1 月 2 日に羽田空港で発生した、JAL 機と海上保安庁機による追突炎上事故。この事故はいくつもの確認ミスなどのヒューマンエラーが重なり、本来であれば様々な対策があるであろう、空港内でこのような痛ましい事故が発生しました。この事故で報道されているヒューマンエラーは下記のようなものがあります。

- ① 管制官とパイロットとの連絡の取り方が曖昧
- ② 副操縦士が行動指示・内容の復唱を怠ったのではないかと
- ③ 『早く行動しないといけない』 思い込みから、行動手順を誤る

・事故を防ぐための二重・三重の対策になる確認行動に、穴が開いてしまう。

スイスチーズモデル

そして右の図は、「スイスチーズモデル」と呼ばれ、イギリスの心理学者ジェームズ・リーズンが提唱した、ヒューマンエラーから事故・トラブルに至るモデルです。事故は単独で発生するのではなく、複数の事象が連鎖して発生するとしたものです。通常、危険の可能性があるものに対して、様々な対策を設けています。万が一 1 つのミスがあったとしても他の対策で事故を防ぐためです。しかしそれぞれの対策の脆弱な部分やヒューマンエラー、つまり穴になる部分を通過し、事故に至ります。



事故トラブル が起きる例

チーズ (対策) 破砕機やその周囲に安全装置を取り付けた

穴 メンテナンス時に制御装置の設定を変えたままだった / 不適切な配置になってしまった / 電源を入れ忘れた / 配線を誤って接続した

チーズ (対策) 安全装置が正しく作動するようチェックシートを作成した

穴 チェックシートの存在を知らない人がいた / 緊急時にチェックを省略してしまった / チェック項目に漏れがあった / チェックシートに誤解を与える記載があった

事故を防ぐために

対策の見直しを行う

事故は様々な要因から発生する可能性を秘めています。対策はその様々な視点から事故を防ぐ内容でなければいけません。考えられる要因が見落とされた対策では事故を防ぐことはできません。**現在の対策はその可能性を網羅できているか、他にも考えられる危険はないかを改めて見直し、より効果の高い対策を施す**ことが重要です。

過去の事例やヒヤリハットを参考にする

自社だけに限らず過去に事故が発生した事例を参考にし、**どのような原因だったのか、ヒューマンエラーはあったのか、などから未然にチーズの穴を見つけることができます**。ヒヤリハットも同様に、ハインリッヒの法則 (1:29:300) の 300 件のヒヤリハットも、チーズの穴です。

常に最新の対策に更新する

対策とは、作られた時が完成ではありません。定期的に見直し、より安全性の高い対策に更新していかなければ意味がありません。PDCA サイクルを実践し、今の対策をやってみてどうだったか、**改善すべき項目はあるか、新たに追加すべき対策はあるかを考え、実行していきましょう**。